

A Y A世代のがん患者に理解を 遠隔で講座、現状や課題発表

地域話題

シェア ツイート

15～39歳でがんと診断された「A Y A世代」への理解を深めてもらうための市民公開講座（中国・四国広域がんブ
口養成コンソーシアム主催）が11日、オンラインで開かれ
た。A Y A世代の当事者や治療を担う岡山大大学院教授ら
が、患者らの置かれた現状や課題を語った。

N P O法人愛媛がんサポートおれんじの会（松山市）の松
本陽子理事長は約20年前、子宮頸（けい）がんが見つかり、
手術や化学療法を受けた経験を紹介。当時30代で、治療
のため仕事を休まざるを得なくなり、子どもも産めなくな
るなど大きな悩みを抱えたが、「周りに若い患者が少なく、
孤独を強く感じた」とし、当事者団体と関わり仲間を見つけ
る大切さなどを訴えた。

岡山大大学院保健学研究科の中塚幹也教授（生殖医療）は、治療内容によって生殖能力が低下する
リスクがある一方、将来の妊娠に備えて卵子の凍結保存などもあることを紹介。「選択肢の一つとし
て知ってほしい」と呼び掛けた。

講座はビデオ会議アプリ「Z o o m（ズーム）」で行い、約150人が聴講した。

（2021年02月11日 20時40分 更新）



（左上から反時計回りに）中塚教授、
松本理事長らがオンラインで行った市
民公開講座の画面